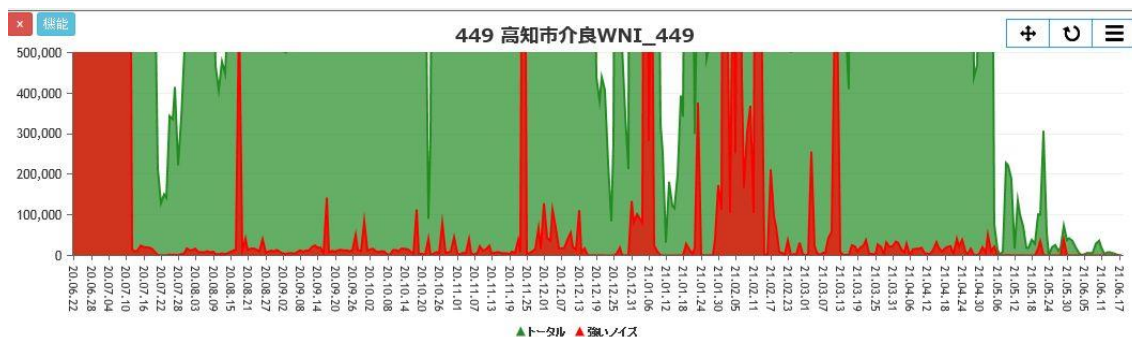


210617 臨時メール後1か月の伊勢、神戸、高知、愛媛などの状況について

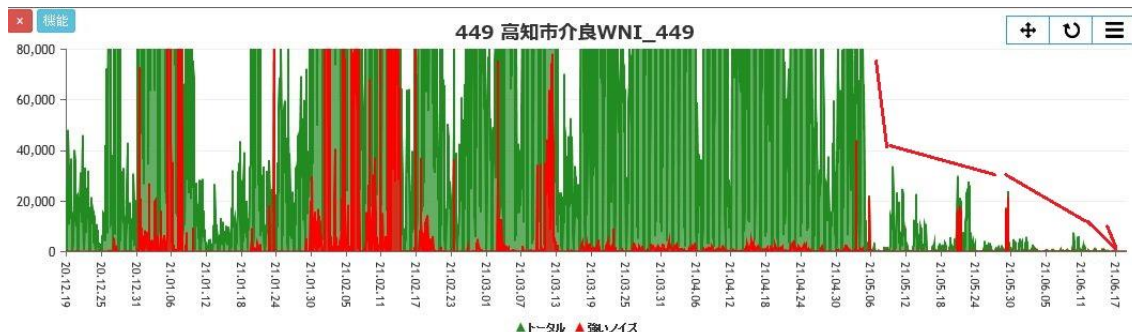


先月の5月17日に1回目の臨時メールを配信してから本日6月17日で約1か月が経過しています。その間大きな地震はありません。この臨時メールの発震のもとになった各地の大型データはその後、多少の上下はあるものの、どれも大きなリバウンドはなく、減衰、収束を続けています。伊勢D、E、神戸、高知、愛媛などの状況について本日6月17日の時点までのデータの経過を以下に載せます。これまで1か月以上に渡り何度も、関西地方の大地震の可能性について警戒するように、と繰り返しお伝えしていますが主要なデータがリバウンドしてきていないことから、もうしばらく警戒を続けて頂きたいと考えます。

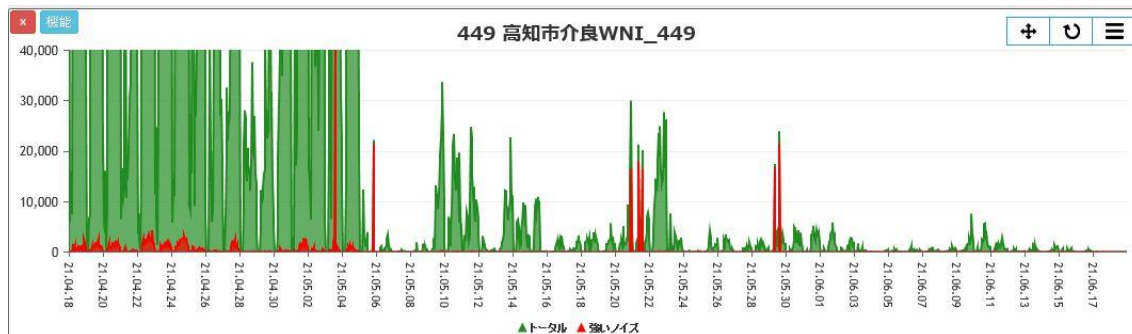
高知市介良 360日間(日毎)データ



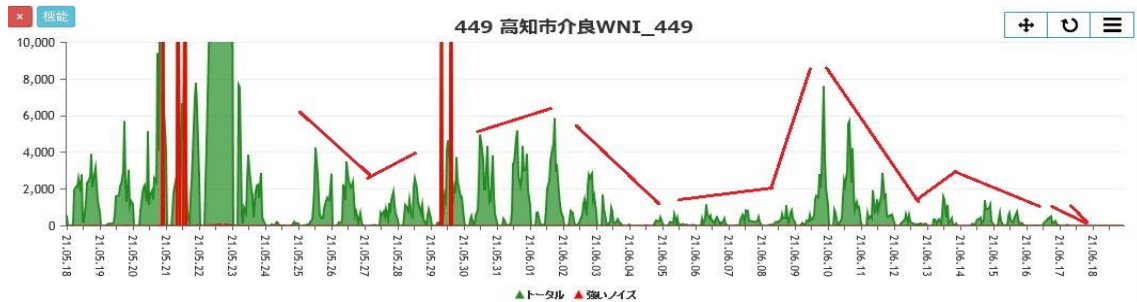
高知市介良 180日間データ



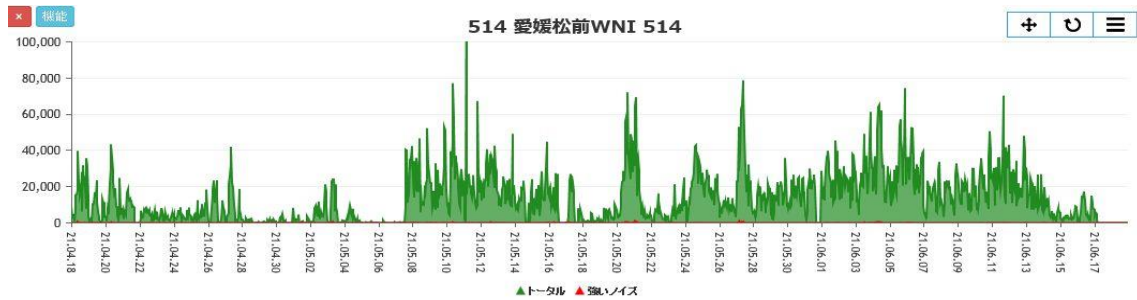
高知市介良 60日間データ



高知市介良 15日間データ



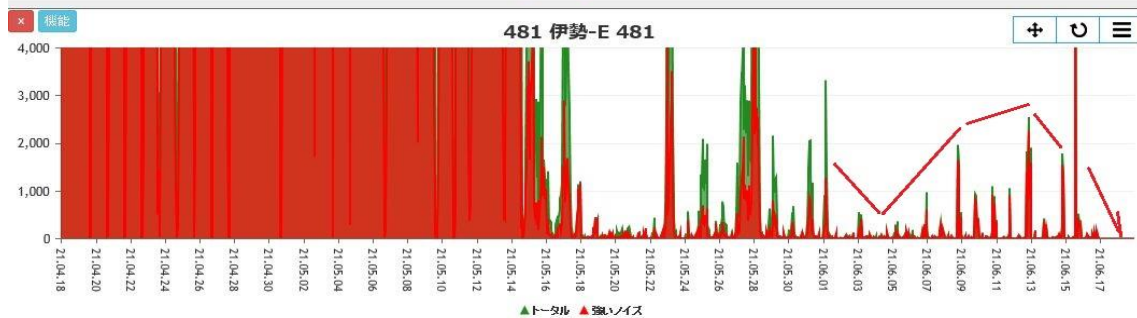
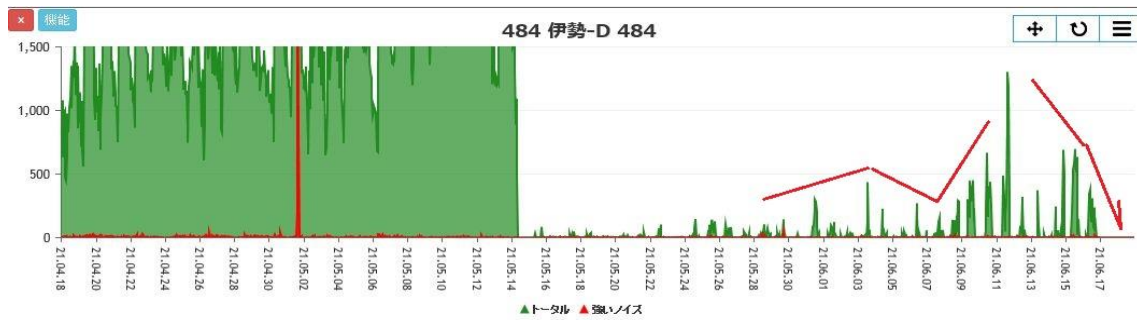
愛媛 松前 60日間データ



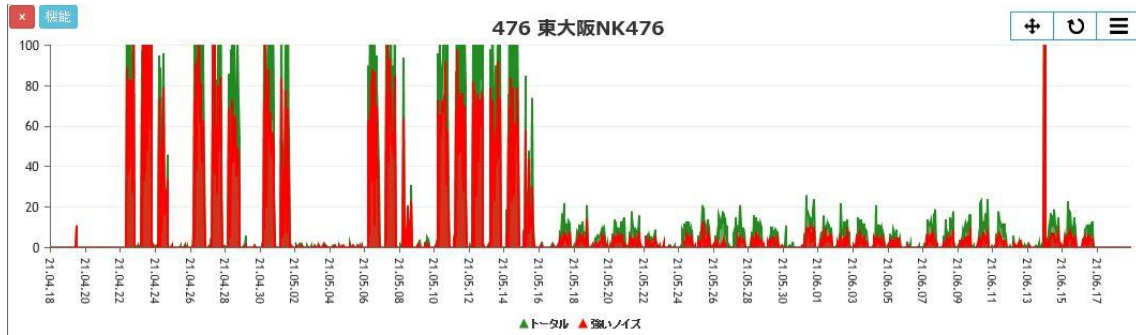
愛媛 松前 15日間データ



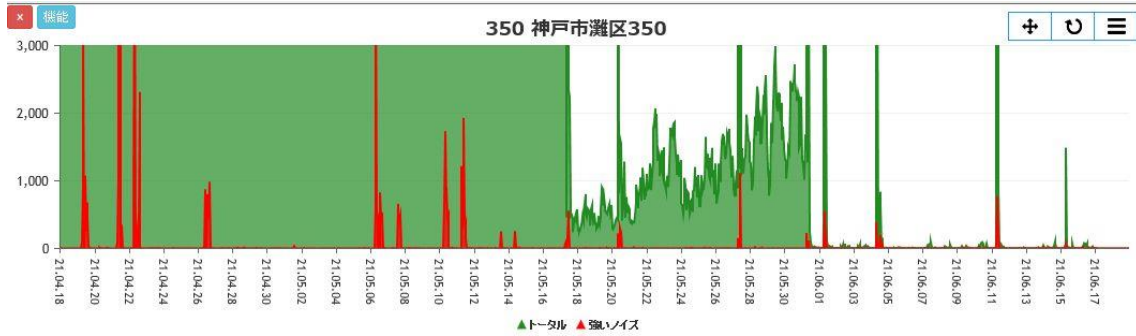
伊勢D484, E 481 60日間データの収束状況



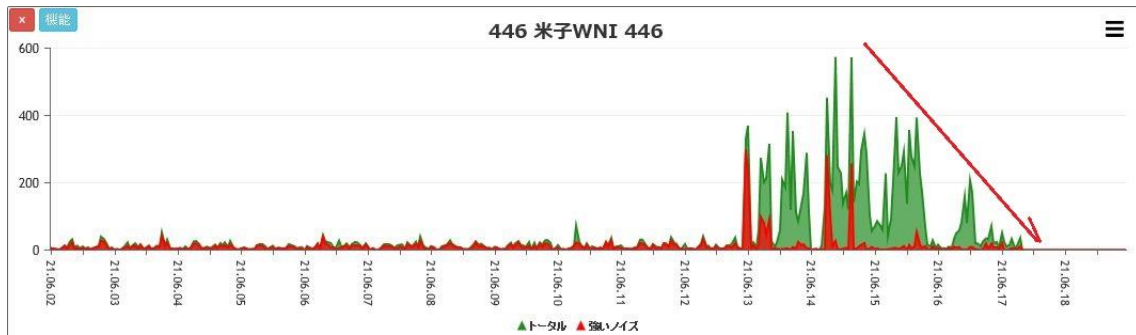
東大阪 60日間データ



神戸市灘区 60日間データ



米子 15日間データ



追伸>

なお、上記のグラフのように 伊勢D484, E481、東大阪、神戸市灘区の各地の60日間データを拡大してみるといずれも5月14~16日に同時に急な減衰をして段差を作っています。第一回目の臨時メールは5月17日に出しましたが、これらの同時の急な減衰によるものでした。伊勢D484, E481、東大阪、神戸市灘区の各地のデータがこのようなほぼ同時に動くことは地理的に考えても自然界のデータであろうと推測できます。明らかに関西地区の地下で大きな動きがあると考えます。